宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2022

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

生き方考える「心と命のフォーラム」

人と比べないで生きるには

総本山善通寺

「生きる作法・死ぬ作法」と題し毎秋、香川県善通寺市の総本山善通寺（菅智潤管長、法主）で開催している「心と命のフォーラム」の第14回が9月20日、菅智潤管長、解剖学者の養老孟司氏、精神科医の香山リカ氏、浄土真宗本願寺派称讃寺住職の瑞田（たまだ）信弘師のメンバーで開催された。今回のテーマは、香山氏の著書の題でもある「比べずにはいられない症候群」。聴衆はそれぞれの発言に熱心に耳を傾けながら、自身の生き方について思いをめぐらせていた。

善通寺で開かれたフォーラム＝9月20日、香川県善通寺市

同書で香山氏は、あの人は幸せそうなのに、自分は…、私の人生はこんなはずじゃなかった、と自分にないものを他人が持っているように見え、みじめ、悔しい、私はダメの感情や、嫉妬している自分への嫌悪感という負のスパイラルに陥りやすい状況を分析し、恋愛・結婚、子ども、友人・親子関係、お金、仕事、運の強さなどなど、日常でのさまざまな「比べあい」を考察し、周りの雰囲気や他人の基準に振り回されずに、いろいろな視点から考えてみると、気持ちが楽になると提案している。

比べあいは、スマホの普及によるSNSの発達で加速され、今や世界中の人が比較の対象になっているほど。一方で匿名による非難・中傷が横行するなど過激化する情報空間で、どうやって心の安定を保ち、自分らしく生きるかが問われている。それは宗教の課題でもあり、二人の仏教僧と医師による語り合いに聴衆は興味津々の様子だった。

最初は登壇者が自己紹介を交え発言。菅師は「コロナ禍で参拝者が激減し、一時は納経所の閉鎖も考えたほどだが、少しずつ回復してきている。来年は弘法大師生誕1250年の記念すべき年なので、いろいろな事業を計画している」と、札幌生まれの香山氏は、オンラインの授業が増えたことから立教大学を非常勤にし、へき地医療に貢献したいと、北海道むかわ町にある診療所の勤務医になったことを報告。「映画のセットのような豊かな自然の中で町民の多くを占める高齢者が自給自足的に暮らしているが、若者たちは都会と同じような心の状況にあり心配だ」と語った。

人間のことより虫に関心がある養老氏は「世界中で虫の数が8～9割減っているのが心配。南北アメリカを渡り鳥のように移動するチョウのオオカバマダラは、1990年代には200万匹観察されていたのが、2018年には3万匹になった」と。さらに、「もっと心配なのは2038年には起こると予測されている南海トラフ地震で、今からどう復興するか考えておかないといけない」と語った。また、ウクライナ戦争にも触れ、「災害や戦争は日常を壊すもの。もっと日常を大切にするようにしたい」と話を進めた。

香山氏は「人と比べて悩むのは人間くらいで、ネコはそんなことしない。3・11の直後は、おにぎりだけで幸せと言っていた人が、それが続くと不満を漏らすようになる。これが人間の業かもしれない」と。瑞田師は「釈迦はこの世は苦で、その原因は煩悩にあるとし、煩悩をなくす道を説いた。私たちは自分の心をもっとよく知ることで、人のことも分かるようになる。そうすれば、比べて落ち込むこともなくなるのでは」と応えた。

菅師は「お遍路さんが白衣なのは、誰もが平等だから。同行二人はそんな私がお大師さんと一緒に歩いているという意味。真言宗は宗派意識が低く、どんな宗派の人も寛容に受け入れる。自坊近くの畑で野菜作りを始めたが、これからの時代を考えると、食糧やエネルギーを最小限に抑える生き方を目指すべきだろう」と語った。

「へき地の診療活動で人に感謝される喜びを味わった。人に貶められることもあるが、救われることもある」と言う香山氏に、瑞田師は「人との距離感が大事なのではないか。心の取り扱いを説いてきたのが伝統仏教で、心を平常に保てば、人に影響されるようなことはない。不安を煽られることが多い現代社会で、仏教を見直してほしい」と語った。

灯

「わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。次の言葉は真実です。『わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、キリストもわたしたちを否まれる。わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を否むことができないからである。』」（Ⅱテモテ2：10―13）

イエス・キリストとの出会いによって迫害者から使徒となったパウロは、後半生を福音宣教に生涯を捧げてきた。人生の終わりが迫ってきたとき、愛弟子に励ましの言葉を送っている。迫害の下にあっても忍耐し、真の師であるイエスの生涯を常に思い起こし、その歩みと共に生きるよう勧めている。ある時から、パウロ自身が、イエス・キリストこそ創造主との絆を取り戻した真の人であり、神の愛の体現者であり、人類の模範だと受け止めてきたからだ。（I）

社説

親鸞とカルヴァン

親鸞の言葉を伝える『歎異抄』は第四条で、慈悲の実践における自力の聖道門と他力の浄土門との違い（かはりめ）について、次のように述べている。

「慈悲に聖道（しょうどう）・浄土のかはりめあり。聖道の慈悲といふは、ものをあはれみ、かなしみ、はぐくむなり。しかれども、おもふがごとくたすけとぐること、きはめてありがたし。また浄土の慈悲といふは、念仏して、いそぎ仏になりて、大慈大悲心をもて、おもふがごとく衆生を利益（りやく）するをいふべきなり。今生（こんじょう）に、いかにいとほし不便とおもふとも、存知のごとくたすけがたければ、この慈悲始終（しじゅう）なし。しかれば、念仏まうすのみぞ、すゑとをりたる大慈悲心にてさうらふべきと、云々」

仏教の真意である慈悲の実践において、自力だとどうしても限界があるが、念仏によって自身が仏になれば、思うように衆生を助けることができる、という。浄土真宗の二種回向の真髄で、マックス・ウェーバーが資本主義を生んだプロテスタンティズムの倫理の源泉とした、ジャン・カルヴァンの二重予定説に通じている。

資本主義の倫理

16世紀、世俗化したカトリック教会は、贖宥状（免罪符）の販売を始めた。教会が発行する贖宥状を買えば罪の償いが免除され救われる、天国へ行けるというものだが、これに対して疑問を持つ者が現れた。ドイツの神学者ルターは、新約聖書の「パウロの手紙」に感応して、信仰によってのみ救われるという「信仰義認説」を唱えた。善行によって救われる「行為義認説」を主張する教会への抗議で、やがてルターはプロテスタントのうねりを起こしていく。

ルターに感化されたフランスの神学者カルヴァンは、スイスで二重予定説を唱えた。自分が救われるかどうかは神に予定されており、その運命は変わらないという。そこで、自分が救われる予定にあることを確かめるために、救われた者のように仕事に励むよう勧めたのである。これが「職業召命説」で、仕事に励む者を神が救済リストから外しているはずはないと説いた。当時の階層社会の宗教観では、労働や蓄財は卑しいものとされていたことから、画期的な発想で、ウェーバーはこれに注目したのである。

二種回向とは「往相」と「還相」の二つの回向。「南無阿弥陀仏」を唱えれば、阿弥陀如来の本願により誰でも極楽浄土に往生でき、その救われた立場で現世に帰り、衆生のために慈悲を実践するという教えである。救われた自分は、もはや迷いを抱えたかつての自分ではなく、阿弥陀如来のように振舞う人になったので、本心から慈悲を尽くすことができるという。

両者の精神状態を想像してみると、よく似ている。自分の思いで行動しているうちは、どうしても好き嫌いや体力などの限界に左右され、慈悲を貫くことはできない。しかし、神あるいはイエス、阿弥陀如来が自分の中にいて、その思いで振舞っているという気になれば、個人的な感情や事情は乗り越えることができるのである。これは、信仰者が等しく実感している世界であろう。さらに言えば、利益より人格の向上を目指せという稲盛和夫のような優れた経営者の言葉にも通じる。

そうした思いは、有限な人間が無限を求める、人間の不思議な本性に由来しているものであろう。だから、洋の東西を問わない。「宗教」という言葉には再び結び合わせるとの意味があるが、それは神と人とではなく、人と人とのことに重点がある。複雑な社会を構成して生きる人には、宗教的信念に基づかないと社会が維持できなくなるからである。個人化が限りなく進行する現代社会にあって、その意味は再考されるべきだろう。

社会における宗教

「宗教と政治」が、顔の見えない集団が政治を動かしているかのような憶測で論じられている今、冷静に宗教の意味について、歴史的、文化的に考え直すべきではないか。古来からの神道の基盤に上に仏教を受容した日本の宗教の特徴は、高邁な思想を生活倫理にかみ砕いてきたところにある。江戸時代に現れた鈴木正三の職業修行論や石田梅岩の石門心学は、山本七平が指摘するように日本的資本主義の倫理となった。

『歎異抄』は蓮如によって長らく禁書扱いされてきたが、明治に西欧近代哲学を学んだ清沢満之により再発見され、近代人の宗教として広く受け入れられた。その近代が終わろうとしている今、本来の宗教・信仰の在り方について、己が内面を見つめながら考えてみたい。

3年ぶり安倍晴明祭

神輿3基が西陣を巡行

京都市

安倍晴明公の銅像のそばで参拝＝9月23日、京都市上京区の晴明神社

平安時代の陰陽師として有名な安倍晴明公を祀る京都市上京区の晴明神社で、秋の大祭・神幸祭が秋分の日の9月23日、斎行された。午前10時に氏子奉賛会や講社員などの参加で例祭が始まると、雨足が強まり、雅楽の調べと雨だれのリズムが心地よく響あい、天人あい和するかのような厳かな神事となった。午後1時からの神幸祭では、神輿行列が西陣の街へ繰り出す直前に不思議と雨が上がった。今年の神輿巡行はコロナ禍のため3年ぶりで、神輿3基のみだった。

晴明神社を出発した神輿は、京の町衆や講社員の男性たちに担がれ、西陣の街中を4時間ほど巡行した。担ぎ手は上下白装束で、白のはっぴの背中には晴明神社のシンボルである「☆」型の五芒星（晴明桔梗）と「晴明神社」の文字が染め抜かれ、「ホィットー、ホィットー！」という威勢の良い掛け声とともに練り歩いた。午後5時に再び晴明神社に戻り「晴明社」と書かれた扁額のかかる鳥居の下を、掛け声と共に注意深くくぐり抜けた。そして本殿の前、安倍晴明公の銅像の脇で神輿を天高く持ち上げ、晴明公への祈りであるかのように「ホィットー、ホィットー！」を連呼して巡行を奉納し終えた。

境内や沿道には多くの露店が立ちならび、コロナ禍にもかかわらず人出も多く、子供たちの歓声が上がった。

晴明神社は、京の一条戻橋のたもとにあった安倍晴明の屋敷跡に現在、鎮座している。寛弘2年（1005）安倍晴明が亡くなった際、当時の一条天皇は晴明の遺業を「晴明は稲荷神の生まれ変わりである」と賛え、寛弘4年（1007）屋敷跡に晴明を祀る神社を創建したのが始まり。

安倍晴明（921―1005）は、鎌倉時代から明治時代初めまで陰陽寮を統括した安倍氏流土御門家の祖である。晴明自身は最近の小説、アニメなどでは若く描かれているが、実際に表舞台に現れたのは遅かった。晴明の有名な出世譚は、天徳4年に発生した内裏火災で焼損した皇室の霊剣鋳造に功があったとして、翌応和元年（961）、41歳で官職としての陰陽師に任じられ、天禄2年（971）51歳で天文博士の兼任が認められた。晴明の陰陽師としての実力は、当時の物語などに多数残されている。

例えば、晴明は幼少の頃、師である賀茂忠行の夜行に供をして、夜道に鬼の姿を見て忠行に知らせたことによって師は晴明の才能に気付き、陰陽道のすべてを教え込んだ（『安部晴明随忠行習道語』）。また、播磨国の陰陽師・智徳法師と術比べをして、晴明がたやすく勝ったことが、負けた方に記録され（『播磨国陰陽師智徳法師語』）、『平家物語』の「剣巻」では、貴船神社に祈願し鬼となった橋姫の腕を渡辺綱が切り落とし、晴明がその腕を封印している。

五芒星と晴明神社のはっぴを着た神輿の担ぎ手

天地

11月初めからうどん用の小麦をまくので、稲刈りが終わった田んぼの溝開けを進めている。トラクターの後ろに専用の機械を付け、回転する刃で深さ50センチほどの溝を開けていく。米は湿地を好むが、麦は乾燥した畑作なので、本来、同じ田んぼで育てるのは矛盾しているのだが、機械と汗でそれを可能にする▼さぬきで麦が栽培されるようになったのは、五反百姓と言われてきた狭い田んぼを有効活用し、食料を確保するため。米は年貢で納めるため、農民の食事は麦が中心だった▼中国山脈と四国山脈に南北を挟まれているため雨が少ないのも、麦作に適していた。さらに、瀬戸内海で出汁の素となる小魚が取れ、小豆島では江戸時代から醤油が生産されていた。金毘羅参りを描いた江戸時代の絵にはうどん屋があるので、当時からうどんは人々のファストフードだった▼天地子の子供時代、近くに製粉所があり、小麦を持っていくとうどんに打ってくれた。田植えの合い間などに素早く食べるのだが、あまりおいしかった記憶はない。それに比べて、今のうどんははるかにうまい。セルフ店ではいろいろなトッピングが用意され、季節の味を楽しんでいる。今の時期ならイイダコの天ぷら。ほのかな甘みが、好みの固いざるうどんにマッチしている。さぬき人の舌がうどんを鍛えてきたのである▼さぬきの夢2009は、圧倒的なオーストラリア産小麦に対抗して開発された新品種。地域の日常的な営みも、今はグローバル化の最先端にある。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税・郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL 078(882)9305 FAX 078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。
霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554